



徹底的に勉強する

仕事をしていると、6月の校舎には歌声が響いてきて「あ～、学校だなあ（なりけり）」としみじみ感じるわけだが、いよいよ星陵祭も終わって、ガッキーのドア越しには（笑）、「あそこで場合分けする理由はさあ～」とか「だからムガル帝国が勃興してね～」とか「ここには of が入るんだよ…」とか「あの反応は水素がくっついて…」といった会話が聞こえてくるようになってくる。いよいよ「その時期」になったわけである。

*

後期は何もない…などということではなく、「勉強」があるのである。もう何に気兼ねすることもなく、何に時間を取られることもなく、ただただひたすら勉強できるのである！この幸せをとことん噛みしめようではないか!!!!……という担任の声がかなり空しく響く気がしないでもないが（笑）、なにせ心置きなく勉強できるのがこの3年の後期なのである。今までもしっかり勉強してきたとは思いますが、それを超えて3年の後期は勉強に集中できる。何もかも忘れて勉強に没頭してみよう。そんな一時期も人生には必要だろうし、なんと言っても勉強しているのが「自分一人ではない」というのがイイ点なのである。全員が同じ目標に向かって努力をしているわけだから、その流れに乗って、どんどんどんどん力を伸ばして行ってほしい。

だからこそ、クラスとしてしっかり勉強の雰囲気を作るといことも大切だ。寒くなるにつれて朝が辛くなるが、遅刻して授業の腰を折ったり、ロッカーに忘れ物を取りに行って授業を停滞させたりしては、クラス全体のリズムにも影響する。一人一人が責任と

自覚をもって勉強に取り組めば、それが結びついて大きな力となることを認識しよう。

また、友だち同士で勉強しあうことも、これからますます求められる。一緒に自習室で勉強する、分からないことを得意な人に聞く、小論文の題材を友だち同士で話し合っ集める、入試に関する情報を共有する、添削を小人数のグループでお願いして、先生とやりとりするだけでなく、友だち間でもやりとりして視野や発想を広げる…といった勉強をぜひ継続してほしい。日比谷のイイところは、イイ友だちがいるところである。よきライバルであり、よきペースメーカーであり、よき目標でもあるだろう。互いに「良い面」を尊重しあって、それを高め合うようなクラスに後期はぜひなってほしいものだと思う。

*

勉強を始めるに当たっては、まずその場所を確保する…といった「形」の面も大切だ。自分の勉強部屋が一番落ち着くという人もいれば、学校の自習室や図書室が集中できるという人、予備校の自習室がベストだという人、色々だろう。まずは場所を確保しよう。

次に、曜日ごとのやることの見直しを決める。後期は授業（国数英）の予習・復習を基本にしながら、なんと言っても理社に比重をかけていくことになる。模試の結果を見ても、理社に伸びしろが十二分に残っていることは明かであろう。これをしっかり伸ばすことが合格の一つのカギになる。通学の途中や授業の合間なども活用しながら、とにかく理社にしがいについてがんばることである。

上述の点を、もう一度確認してみよう。